

全員協議会 会議録（要点筆記）

令和 3 年 8 月 2 4 日
午後 1 時 3 0 分 開会
午後 2 時 2 7 分 閉会
場所 : 全員協議会室

【上程議案の補足説明】

1. 令和 2 年度半田市決算に係る健全化判断比率について

坂元照幸総務部長：資料に基づき説明

質疑なし

2. 令和 2 年度半田市公営企業決算に係る資金不足比率について

村瀬浩之水道部長：資料に基づき説明

中川健一議員：現状問題ないとの説明でしたが、下水道事業では受益者負担の観点から（料金の）値上げが見込まれています。値上げと資金不足比率の関係性はどのようなのでしょうか。

村瀬浩之水道部長：この資金不足比率という指標は、経営するにあたって資金ショートが起こることがないという確認のためのものです。議員が言われる下水道料金の値上げのものとは異なり、比較するものではありません。

3. 知多南部卸売市場株式会社の経営状況について

出口久浩市民経済部長：資料に基づき説明

質疑なし

4. 新型コロナウイルスワクチン接種事業の実施について（令和 3 年 9 月追加分）

竹部益世健康子ども部長：資料に基づき説明

中川健一議員：今は全国でも半田市でも感染者が増えている状況です。先日岐阜県がどういった人が感染しているのかを公表していました。愛知県はそういったことを行っていないのでわかりませんが、いろいろなデータを見てみますと 20 代、30 代の行動範囲が広い人たちが感染し、それが家庭内で感染を拡げるというケースが多いように思います。そういった世代がきちんと感染防止対策のうえで行動してもらえば良いのですが、そうではない現状がある中で、そこを抑制する対策を講じないと感染が収束しないと考えます。今回のワクチン接種事業を通じて取り組めることがあるのでしょうか。

竹部益世健康子ども部長：今回の（補正予算で計上している）事業は「ワクチン接種事業」ですので、接種にかかる予算を計上しています。その他で感染拡大の対策については若い世代に声が届くように市長メッセージの動画を配信。自治区への回覧などを行っています。その取り組みにかかる経費は新規で計上せず、現在の予算の範囲内で行っています。今回計上した補正予算内では拡大防止のための取り組みの経費はありませんが、強いて言えば、（多くの市民に）ワクチンを接種していただくことが最大の感染拡大防止策であると言えますので、それをしっかりと推進するための予算を計上しています。

中川健一議員：私が少しまどろっこしい言い方をしてしまったので（伝わらなかつ

たようですが）、東京都などでは渋谷の駅前で若い世代に対して、来場したら予約なしでワクチンを接種する事業を開始しました。これは、若い世代が感染拡大の感染源になっている現状を捉え、拡大を止めるには若い世代の早期接種が必要であるとしているからです。半田市においても同様の取り組みをこの予算内で考えてはいないのですか。

竹部益世健康子ども部長：今回の予算にそういった取り組みの費用は含まれていませんが、既に全ての対象者にクーポンを送付しており、ワクチンの予約枠もまだ空きがありますので、そういったことをアナウンスして、若い世代の方に接種していただくよう働きかけていきます。

5. 最低賃金引上げに伴う半田市パートタイム会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について

山田幸企画部長：資料に基づき説明
質疑なし

6. 半田市手数料条例の一部改正について

坂元照幸総務部長：資料に基づき説明
質疑なし

7. 半田市廃棄物の減量及び処理に関する条例の一部改正について

出口久浩市民経済部長：資料に基づき説明
質疑なし

8. 知多南部広域環境組合規約の変更について

出口久浩市民経済部長：資料に基づき説明
質疑なし

9. 令和4年度からの指定管理者の指定について

（半田福祉ふれあいプール、青山記念武道館、半田空の科学館・半田市体育館）
竹部益世健康子ども部長：資料に基づき説明
質疑なし

【報 告 案 件】

1. 市税等収納向上対策について

坂元照幸総務部長：資料に基づき説明
質疑なし

2. 市立花園保育園の建替え・民間移管に係る新設保育園の整備・運営法人選考結果について

竹部益世健康子ども部長：資料に基づき説明
質疑なし

3. 新半田病院暫定アクセス道路にかかる島田橋の耐震対策について

大山仁志建設部長：資料に基づき説明
質疑なし

4. 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果報告書について

岩橋平武教育部長：資料に基づき説明

中川健一議員：教えていただきたい点があります。14ページの「保護者への扶助、補助を充実する」生活保護の家庭、準要保護児童・生徒への就学奨励事業とその

下の保護者負担の軽減事業は（評価が）「○（ひとつまる）」ということで「概ね順調である」（と評価した）理由を教えてください。特に外部評価の委員がこの評価とした理由について教えてください。

岩橋平武教育部長：まず準要保護児童の就学奨励事業ですが、数年前までは愛知県下の各自治体と比較する中で給食費などが低かった経緯がありましたが、そういった点を改善し、他市並の支援ができているとして「概ね順調」という評価がされています。もう1点の保護者負担軽減事業は、副教材について半田市は積極的に市費を注ぎ込んで実施していますのでそういったことが評価されたと考えています。

中川健一議員：そこが納得しかねるのですが、半田市は今回地域振興券事業を実施する目的のひとつに生活困窮世帯への支援を挙げています。この評価表内の準要保護家庭がこの扶助、補助事業で困っていないのであれば地域振興券を実施する必要はないと考えます。この世帯の方たちへの支援が不足しているから、（地域振興券事業で救うべき人がいるのであれば）もっと扶助・補助事業を充実すべきで、「概ね順調である」という評価はおかしいのではありませんか。

岩橋平武教育部長：地域振興券の事業とは別のものです。準要保護の世帯は、生活保護のハードルが高く、生活保護が適用された場合、手放さなければいけないものもあり、そういったところに矜持を持った方が準要保護の申請をされることが多いと考えています。申請すれば、生活保護の適用となる方もいらっしゃるかもしれませんが。そういった方たちの就学奨励事業であり、義務教育に最低限必要な用品等を支援するもので、地域振興券とは性質を別にするものです。

中川健一議員：私の質問の意図するところはそこではなく、生活保護世帯の方は、生活の全てを公費でみてもらえるので困ることはないと思いますが、生活保護の一手手前の人たちが実は一番苦しい状況にあると考えています。母子家庭で母親一人が家庭を支えながら、コロナにより職を失うなどの状況にある方が少なからずいらっしゃる「層」が「要保護・準要保護家庭」であり、一番困っている方たちだと思います。その方たちへの支援が十分足りているとすれば、今、半田市内で誰が困っているのか、という話です。地域振興券を出してでも、生活に困っている人の一部を救わなければいけないと市長が言っているわけですので、（教育点検評価）この家庭への支援が十分足りているという評価はおかしいと言っているのです。外部の委員が「○」という評価のみであれば、半田市の状況把握が不足しているという見方もできますが、担当課（内部評価）も「○」としていますのでおかしい。

岩橋平武教育部長：この支援は「家庭における生活全体」への支援ではなく、子どもたちの就学に対し行うもので、例えば翌年度入学する子どもさんのランドセルや、日々の給食など、そういったものをある程度所得制限に応じて補助しています。その点について、市として「◎（にじゅうまる）」ではなく、「○（いちじゅうまる）」の評価としたものです。

中川健一議員：最後に尋ねします。半田市の生活保護手前の一番苦しい状況にあると考えられる家庭については教育に関しては万全の支援をしていて、困っていないという理解でよろしいですか。

岩橋平武教育部長：繰り返しの説明となりますが「生活保護」とは異なるものです。
また、この取組みを行っているから「教育に関しての支援が万全である」と言えるとは考えていません。

【「じゃ、なんでやらないの」との声あり】

岩橋平武教育部長：万全であれば「◎」の評価をしています。全体の教育行政の中で、半田市として(今の取組みが)適正であると判断し奨励事業を行っています。

鈴木健一議員：関連としてお聞きします。当然のこととは思いますが、「○」で満足しているわけではありませんよね。

岩橋平武教育部長：奨励事業は、やれるだけ（どんどん）やるのがベストであるとは思いますが、教育行政全体の中で今の取組みがベターであると考えています。

鈴木健一議員：当然「◎」を目指すものだと思いますが、「◎」とするためにはどういったことが必要だと考えていますか。

岩橋平武教育部長：「◎」にするための方法というのは検討が必要だとは思いますが、この事業は所得制限がありますので単純に考えれば所得制限の額を下げれば対象者は増えます。

坂井美穂議員：（資料）１７ページの「いじめ不登校対策事業」で教育相談員を１名増員等の取組みにより評価は内部、外部ともに「○」となっています。３５ページの一番下の表で教育相談員の相談状況を見ると、令和２年度の件数が前年度以前よりかなり増えており、早期発見、早期対応ができたことが見て捉えられます。３４ページのいちばん上、いじめの解消状況表内、「いじめが継続している」件数について、「いじめが継続している」とはどのような状況であるのか、また、令和２年度に件数としてあがっているもので前年度から継続している案件があるのか、を教えてください。

岩橋平武教育部長：「継続」について、令和２年度時点で学校から最終的な報告があがってきていない件数を載せており、いじめの状況が継続しているものではありません。また、案件ごとの詳細の資料を持ち合わせていませんので、前年度から継続しているかどうかはお答えしかねます。

中川健一議員：坂井議員の質問に関連して、「いじめ不登校対策事業」の評価がいじめが解消しきれていないのに「概ね順調（○）」となっている理由を教えてください。

岩橋平武教育部長：いじめについては、半田市として、もちろん「０（ゼロ）」に向けて相談員の増員など小さなサインも見逃すことのないよう取り組んでいます。いじめはないのが一番で、「０（ゼロ）」なら「◎」の評価となります。いじめがあるにも関わらず「○」という評価がおかしいとの議員のご指摘も理解できますが、「０（ゼロ）」に向けて全力で取組み、一定の成果も出ていますので、その取組みに対し評価を行ったものです。その評価が「甘い」ということであれば、今後に向けて、内部でしっかりと協議して、次年度の評価を行っていきます。

５．通学区域の特例措置の解除について

岩橋平武教育部長：資料に基づき説明
質疑なし

午後 ２時２７分 閉会